



今年に入り日本全体で様々な自然災害が多発しております

「大阪府北部地震」「平成 30 年北海道胆振東部地震」

また台風や豪雨も例年に比べ多く

各地でその影響が拡大しています

すべての災害に対し

お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに

被災されたすべての方へお見舞いを申し上げます

印刷労連は今後も引き続き

様々な災害に対応するべく連合と連携し

復旧・復興に向けて協力してまいります

印刷情報メディア産業労働組合連合会

予定しておりました連合「平和行動 in 根室」は「平成 30 年北海道胆振東部地震」の発生により、連合が今後の対応を検討した結果、中止の判断をいたしました。

今回の「NETWORK」は、この号で掲載する予定の内容を一部変更し、皆さまへお届けいたします。

印刷情報メディア産業労働組合連合会 教育・広報委員会

ここでさらい 連合が取り組む「平和 4 行動」とは？

毎年、連合が取り組んでいる「平和行動 in 沖縄・広島・長崎・根室」ですが、平和行動というからには平和を願う行動であるのはご存知であると思います。

しかしながら、どのような観点で労働界から平和へ広がっているのか、なぜ4行動なのかなど、今回はさらいも含め、紐解いていきます（一部「連合ホームページ」より抜粋）。

■平和で安定した社会・暮らしの実現をめざして

連合がめざす「安心して暮らし、働き、労働運動に携わることのできる社会」の実現には、「社会が平和で安定していること」が大前提です。戦争はあらゆる社会基盤を破壊します。そのため連合は平和運動に積極的に取り組み、世論を巻き起こし、地球規模での“絆づくり”を進めることで、平和で安定した社会・暮らしの実現をめざしているのです。つまり「働くことを軸とする安心社会」を実現するためには「平和」が必要不可欠なのです。

■いまでも残る 70 余年前の戦争の爪痕

「平和」であることがあたりまえと思われがちですが、いまだ戦争の爪痕に多くの人々が苦しんでいるのです。

世界で唯一原爆が投下され、後遺症に苦しむ広島と長崎、米軍基地が多く置かれ過度な負担を強いられる沖縄、領土を奪われ多くの住民が故郷を失った北方四島においては、戦後70年以上が経った今も真の平和、安定した社会の実現は成されていません。

連合は平和運動として主に、次の3つの課題に取り組んでいます。

1. 核兵器廃絶による世界の恒久平和の実現と、被爆者支援の強化
2. 在日米軍基地の整理・縮小、日米地位協定の抜本的見直しに向けた運動
3. 北方領土の早期返還と日ロ平和条約の締結をめざす運動

また連合は、毎年6月～9月に行う「平和4行動」をはじめ、様々な労働組合や団体・機関と協同して平和運動を推進しています。

■平和 4 行動の目的

<p>平和行動 in 沖縄</p>	<p>太平洋戦争の末期、沖縄に上陸した米軍との激しい地上戦で20数万人の命が奪われました。このような悲劇を二度と繰り返さないため、6月23日の沖縄「慰霊の日」に戦没者の霊を慰め、平和の尊さを心に刻みます。</p>	
<p>平和行動 in 広島</p>	<p>太平洋戦争終結直前の1945年8月6日、米軍によって原子爆弾が広島に投下され14万人の尊い命が奪われました。人類史上初めて原爆が投下された広島の地で、悲劇が二度と繰り返されないよう訴え続けています。</p>	
<p>平和行動 in 長崎</p>	<p>広島につづき1945年8月9日、長崎にも原爆が投下され、7万4,000人が息絶え、7万5,000人余が傷つきました。長崎の地から平和への祈りを込め、二度と核兵器が使われないよう強く訴えていかなければなりません。</p>	
<p>平和行動 in 根室</p>	<p>北方四島は日本固有の領土ですが、第二次世界大戦終結時から今日まで、ロシアによる不法占拠が続いています。領土返還と日ロ平和条約の締結なくして真の平和はありません。</p>	

■「平和4行動」継続的取り組みの象徴である「ピースフラッグ」

毎年6月～9月に行う「平和4行動」ですが、その1年で行動は完結していません。連合は、継続的行動であることを幾度となくアピールしてきました。その象徴として「ピースフラッグ」があります。

平和集会を通して「ピースフラッグ」は次の行動先の地方連合会へ託され、その想いや平和への願いを込めながら永年リレーを継続しています。この「ピースフラッグ」を介して、様々な人々の想いが各地へ移動しているということです。



■平和4行動は連合が掲げる「7つの絆」のひとつ

連合は、安心して暮らし、働くためには、「社会が平和で安定していること」が大前提と主張しています。平和運動や自然災害支援への取り組みを通じ、“絆づくり”を進めています。そのために以下の「7つの絆」を取り組みとして展開しています。

1. 平和運動
2. 核兵器廃絶・被爆者支援
3. 人権を守る(差別撤廃・拉致問題)
4. 被災地支援と自然災害に負けない
5. 愛のカンパ(NGO・NPO支援/災害支援)
6. メーデー
7. より強固な絆にしよう

連合は、この取り組みを進めることで、次のステージへと展開していきます。ぜひ皆さんで共有し、共に頑張りましょう!!

■印刷労連が取り組むべき「平和行動」とは

平和に対する考え方は「個人」「組織」「産業」「地域」など様々な想いがあります。連合も様々な組織や団体、労働組合と協同しながら行動に取り組んでいます。

印刷労連も連合に同調し共に行動していますが、それは世論喚起や国政への訴え、また恒久平和を願う様々な人たちの想いを伝えることが役割です。

すでに参加された方は、この体験を一人でも多くの組合員へ伝え、これから参加される方は、ぜひ等身大でこの行動の一つひとつを受け入れ、そこで得た知識や体験が70余年前に現実として起こった出来事であった事実ということを感じてください。それが恒久平和の想いとして後世へ引き継がれるのです。



アジア連帯委員会（CSA） 35 次救援衣類を送る運動

印刷労連は今年度も社会貢献活動の一環として取り組んでいる、救援衣類を送る運動を今年は9月18日～9月25日の募集期間を設けて取り組んでまいりました。

今年度は、コクヨ労働組合、フォームズユニオン、フォームズユニオン関西、フォームズユニオン西日本、図書印刷労働組合、リーブルテック労働組合、高桑美術印刷労働組合よりご協力いただき、今年は昨年を上回る48箱（昨年以前より大きな箱に変更）になりました。ご提供いただきました各構成組織の組合員の皆さまに感謝を申し上げます。

また、海外輸送募金として70,000円を連帯基金から拠出いたしました。



■ アジア連帯委員会（CSA）とは？（アジア連帯委員会ホームページより抜粋）

アジア連帯委員会（CSA）とは貧困や多くの問題を抱えるアジアの人々を支援し、交流活動を通じて、連帯を深めているNGO（非政府組織）です

現在、タイ、ラオスを中心に福祉活動として「救援衣類をおくる運動」、教育支援として「小学校建設・補修」「高校生支援事業」を行い、恵まれない人々を支え、それらの国の健全な経済社会開発に貢献する努力をしています。

活動の始まりは、1981年に設立された「インドシナ難民共済委員会」です。ラオス、ベトナム、カンボジア3国の難民を人道的立場から支援するためのこの委員会は、日本に定住する難民の自立を助けるとともに、タイの難民キャンプ支援を始めました。また、非常に厳しい生活をしている人々にも同じように支援を行うことになり、1993年5月「インドシナ難民及びアジアの恵まれない人々と連帯する委員会」（CSIRA）へと団体名を変更しました。



その後、インドシナ難民問題が終息に進み当初の目的もほぼ達成されたなか、新たな活動展開のため、1995年に名称を「アジア連帯委員会」（CSA）と変え、現在に至っています。



構成は、労働団体、市民組織、企業などCSAの趣旨にご賛同いただいている組織や個人の方々、そして日本在住の難民で構成される「日本在住ベトナム人協会」、「在ラオス協会」です。CSAの活動は、日本労働組合総連合会の「連合・愛のカンパ」や全国各地の大勢の皆様から寄せられる「善意の募金」により支えられています。

CSAの事業は1990年に「外務大臣表彰」を、1995年に「内閣総理大臣表彰」を受けています。海外からは1994、1995、2001年にタイ国首相から「感謝の楯」が、2002年には、ラオス国首相から「開発勲章」がそれぞれ贈られています。また緒方貞子国連難民高等弁務官からも、1993年と、2000年の二度にわたり「感謝のこぼし」をいただきました。

これらはすべて多くの団体、個人の皆様のおかげです。心から感謝申し上げます。今後もたゆまぬ努力を続けていく所存です。皆様のより一層のご支援・ご協力を心からお願い申し上げます。

- 正式名称：アジア連帯委員会（CSA）
- 英語表記：The Commission for the Solidarity with the Asian underprivileged
- 所在地：〒105-0014 東京都港区芝 2-20-12 友愛会館 14階
- 設立年月日：1981年4月16日

— 編集後記 —

夏の暑さも和らぎ、秋の季節となりました。秋の語源は諸説ありますが「穀物等が収穫の季節を迎え食べ物が飽きるほど出回るから」と言う説があります。「食欲の秋」「味覚の秋」など食べ物が美味しい季節にもなり、ご自身に食べ過ぎ注意報を発令する方も増えてくるのではないのでしょうか。

ただ、食中毒を引き起こしやすい季節も秋なのです。食中毒の主原因はサルモネラ菌と腸炎ビブリオ菌なのですが、これらの菌は、気温25度以上

になると一気に増殖します。となると夏が危険と思いますが、夏は誰もが食品管理に気を使っています。つまり、秋になり涼しくなると気が緩むのか、危ない食品を平気で口にしまい、その結果、食中毒になるというわけです。

これからは食べ物に気を使い、ぜひ「爽りの秋」を堪能してください。同時に、労働運動でも「爽り豊で飽き（秋）ない活動」をともに展開しましょう。

教育・広報委員会 大窄 新二